

931012
Mot.

from: 鉄道ファン
93.11表紙

Blowers 20

乗 船 口

3	FOX AWAY	文・正宗征士 絵・井村和正
9	20号刊行にあたって	文・編集部
11	真鶴学園風雲録	文・岬当麻
26	《三等雑居室》	
33	PEACE PRESSER MAYA	文・本居小次郎 絵・幻 本居の先輩

今月の告知

- ※「FOX AWAY」「真鶴学園風雲録」両PBMのシートは12月18日必着。
- ※「FOX AWAY」には、別売りのルールブック（300円）が必要です。
- ※「真鶴学園風雲録」には、別売りのルールブック（100円）が必要です。
- ※ただのりなさんは冬コミ準備で、当分の間お休みです。新年をご期待有れ。
- ※PBM王虎闘史のゲーム開始、及びルールはルールブック一式にて発表。

21号の料金表

- ①代価は300円です。（無記名の定額小為替を使用・消印に注意）
郵便切手で代用する場合は62円切手5枚です。
 - ②郵便代は250円です。
 - ③高校生以下の方には、学割制度があります。年度始めに学生証その他身分証明のコピーを送れば、その年度は定価の50円引き。顔写真など不要な部分は塗りつぶしても可。この割引を使う場合は、郵便切手での代用は不可。
 - ④団体割引は廃止します。
- ※なお、コスト低減のために丁度しか刷らないので、PBMに参加しない人も、なるべく「原稿締切日」までに連絡のこと。代金は多少遅れてもいいので、とにかく要る冊数だけは教えて下さい。

警告！

封筒裏面の差出人住所は必ず書くこと。これが無かった場合、何が起きても責任は取れません。というのも、第一にはこれを見て発送用封筒の宛名書きをするため。第二には郵便事故を予防するため。家の管轄の郵便局は市内でも一二を争う高事故率を誇っているのです。なるべくスキは作らない方が良いでしょう。

あなたの家が、名前だけ書いておけば間違い無く届く日本で一軒しか無い有名なところなら、こちら文句は有りませんが、そうでない以上はちゃんと守って下さい。お願いします。

※今月は様々な事故があったため、ページ組みに多少混乱が御座います。
申し訳ございません。

おことわり、お詫び、 そして綱紀肅正

Blowersをお届けいたします。皆様のお陰をもちまして、20号を数えるまでに至りました。創業以来6度目の正月を迎えることも何とかできそうです。

そこで皆様にご覧いただけます。ここ数号、締切り間際または締切り後数日経ってから「FOX AWAY」または「真鶴学園風雲録」のキャラクターシートが届くケースが後を絶ちません。以前空技廠が「A-strike」のみをやっていた頃から折を見て言ってくるのはありますが、原則として「期限は絶対」です。これは同人に限らず何をするにもルール以前の常識だと思いますが、いかがでしょうか。それともそんなところまで主催者側はサポートしなければならないのでしょうか。少なくとも日本の汽車は時間が来たら行ってしまいます。切符を持った人が遅れてホームに駆け込んで来たからといって、その汽車は待ってくれますか？それとも同人誌は例外ですか？そんなはずはないでしょう。少なくとも私はそう考えています。

その一方では「Blowers」の質の低下が毎回のように言われています。これは当方としては矛盾した要求と言わざるを得ません。確かに、私の能力には限界があり、それほど質の高いものをお届けすることもできないのですが、追い討ちをかけるようにこの有様では、手の打ちようがありません。現状ではロクに考えるヒマもないのです。質の低下には、締切り破りのあなたも片棒をかついでいることをお忘れなく。そして私だけでなく、ちゃんと早目に出している人にも迷惑がかかっていることにも注意して下さい。

今号は私の「限定ストライキ」です。普通なら為替をもらったまま雲隠れしているところですが、「就職するまでは何とか続ける」のは空技廠創業時からの公約で、これをすっばかすことは私の信条に反します。本を出さなければ私からは何も言えませんから、折衷案が今号です。一部を除いて、締切り以降のキャラクターシート（特に真鶴）は無視しました。三雑の方の不掲載は必ずしもそれが原因とは言いきれませんが、理由の一つであることは否定しません。「20」という記念碑的な号でこんな状態に突入するのは不本意ですが、もはや事態は黙って見過ごせないところまで来ています。私の方針に文句が有る人はどんどん言ってきて構いません。黙って行方をくらまされるより、その方が余程マシです。その代り、やるべきことはちゃんとやって下さい。具体的に言えば、締切りの厳守です。その程度もできないで一人前に文句だけ言われるのでは、私も納得がいきません。

ええかげんにせえよ、 貴様らあ！

表立って言うのは多分初めてでしょうが、空技廠の基本コンセプトは「DO！」です。あなたができることは、何ですか？

平成5年11月末日

菊地研一郎 拝

行け行け外回り！ 番外篇

予告通り11月14日に第三京浜国道で高速実技講習を受けて参りました。思ったよりラクと言うか、簡単だったので、以下その概要を記します。

自動車学校で配車した時に割り当てられたのが、一番苦手だった某女性指導員の車で、缶コーヒのCMよろしく「参ったなあ……」と溜息をついていたのですが、時間になってしまえばそんな事も言ってもらえず、とにかく講習は始まりました。専用の教習車に乗り換える前にMTとATが選べたのですが、「せっかくの普免」とばかりにMTを選択。車はどっちもカペラで、FFだからどうでもよかったのですが……ところがその直後にいきなり過ちを思い知らされました。というのもこの教習場は、裏手にちょっとした山があって、第三京浜（世田谷入口）に出るにはこれを越えなければならないのです。それは分かっていたのですが、「大きい方の道から行くだらう」と思い込んでいてタカをくくっていたところへ、「じゃこっちの道からね」とエライ細くて急な所を通らされたのです。しかも一通じゃない。対向車が来たらどうしようとローギアに入れっ放しでヒヤヒヤしてて、歩行者どころの騒ぎではありませんでした。運良くひかずに済んだけど、あれで飛び出されたら危なかった。

第三京浜自体はその前の日曜に父親の運転でいっぺん通ってもらったので、大体の事は把握していました。だから特に焦ることもなく、規定速度+ちょいで進入。「本線」に入り、一番左の車線に入る（初心者のマナー）や否やトップ（4速）からサードに落して80まで増速……しかけて最初のお小言。

「まだだよ」

実は多摩川を越えるまでは本線ではなくって、速度規制60キロなんだそうです。確かに川を越えてちょっと行ってから、80の標識が出ました。……後は何もすることはありません。困ったのはアクセルの動きに車がナーバスな事で、トップに入れてあるのに少し力を抜くだけで呆気無く60キロ位まで下がってしまうこと。かと言って踏みっ放しだとあっという間に90キロを軽く越えそうになるし、この加減は身体で覚えるしかないでしょう、やはり。お陰で往路だけで右足がすりそうになりました。

大体10分かそこら走って港北インターで一端高速を降ります。実はここは家に近いのですが、そんな事には構わず一般道をUターンしてもう一度入線。このUターンも実は初めての体験で、危うく歩道に突っ込みかけました。片側三車線の割と広い道なのですが……FFが概してカーブで脹らむのとは関係なさそうです。ハンドルに余裕があったし。

帰りの進入には行きよりも緊張しました。行きは始発点だから合流と言っても単純に加速するだけでよかったのですが、こっちは場合は自分よりも早い後続車という要素が有ります。一般道なら適当にチラチラ振り返りながら行けば何とかなるのですが、今回は自分も相当スピードが有るのでそうも行きません。結局空いていたので難なく合流、無事帰途につきました。空いていたと言えば当日は休日で快晴だったにもかかわらず、ガラガラと言っても良い程空いていて、渋滞というものには出会いませんでした。運が良かったと言いかいようが有りません。

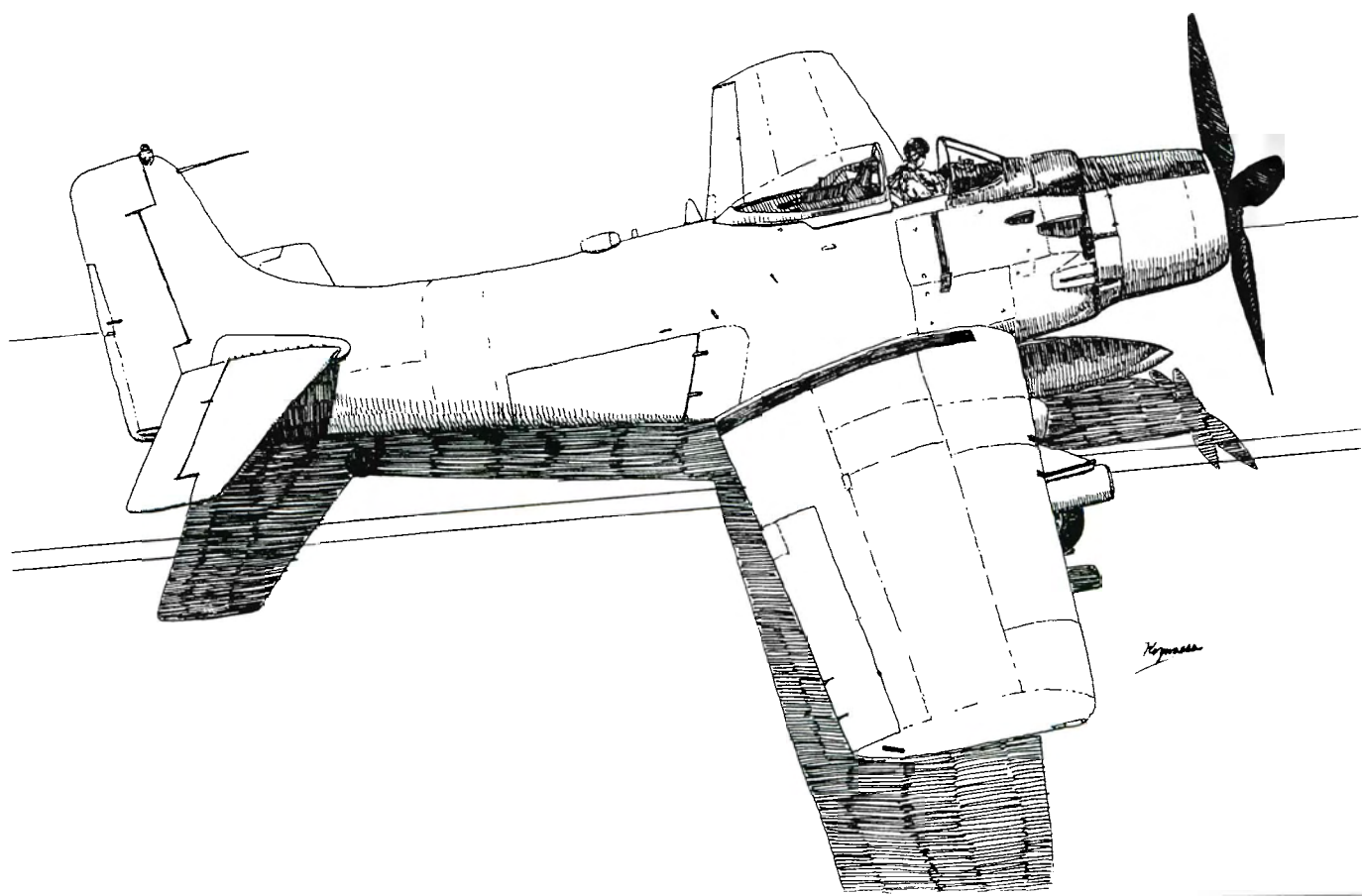
帰るまでエンストにも縁がなく、高速走行時も右に寄るクセはあったもののフラつきはなかったし、まあ、初めてにしてはまずまずといったところではないでしょうか。

全般に、徳大寺有恒のドラテク本が役に立ちました。目的が「セーフティ&ファースト」に絞ってあって、判り易いのもいい点。最近お薦めの一冊です。

FOX AWAY

第四回結果発表

(1970年9月)



イザベリア海軍航空隊

☆戦果報告

アレックス大佐：我が軍情報部の能力も地に落ちたものだ。例の基地が実はもぬけのカラだったことが降下後にわかるとは、返す返す腹が立つ。それにしても連中の偽装工作も大したものだ。そのカラの基地への攻撃に対して、ハデに反撃してきたからな。

作戦は基地の確保という点では成功だが、払った犠牲が大きすぎたという点では失敗だ。我が軍史上に残る大汚点となるだろう。例の基地は「野戦基地A」と命名された。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	C S	キャラクター名	S	D	B	S	P	O	P	階級	状態	機体
篠原 崇	7 0	J 3 5	シューティング・スター	アリア・イアハート	0	0	1	1	3	少尉	生還	無傷		
	7 0	J 3 5	パニラ	橘 いずみ	0	0	1	2	2	少尉	生還	無傷		
	7 0	F 1 1	ハロウィン	マイケル＝キスク						中尉	戦死			
	7 0	F 1 1	RANCE	シール＝ブライン	0	0	5	2	2	准尉	生還	少破		
	7 0	F 1 1	WhiteLightning	スクリュー＝ロー＝エンガリン	0	0	5	3	3	准尉	生還	無傷		
	7 2	B P h	きゅべれい	エルピー・プル	0	3	103	2	4	中佐	生還	無傷		
				アルコ・クラッハ					8					
	7 2	B P h	シャドウ＝スキル	トロン・ミラン	0	2	7	0	8	少佐	生還	無傷		
				エレ＝ラゲ				2	5	3	中尉			
	7 2	A 7 B	Saint Emerald	レジーナ・ブライス	0	3	106	2	2	中佐	生還	無傷		
遠藤 誠	7 0	F 1 1	グリフォンー6	アレック・ノートン	0	0	1	1	1	准尉	軽傷	少破		
	7 0	F 1 1	グリフォンー7	三条 保	0	0	1	1	1	准尉	軽傷	少破		
	7 2	1 0 0	グリフォンー4	日影 修	0	0	5	3	3	准尉	軽傷	中破		
	7 2	1 0 5	グリフォンー5	リチャード・チャップマン	0	2	2	7	3	中尉	生還	無傷		
	9 9	A 4 F	グリフォンー0	ジョン・シェカー	0	0	9	7	1	4	少佐	生還	無傷	
	9 9	A 7 B	グリフォンー1	ボールドウィン	0	0	8	5	1	2	少佐	生還	無傷	
菅原 忠幸	7 1	F 1 1	アルタイル	ガイン・ロドリガス	0	0	1	1	1	准尉	生還	大破		
	7 1	F 1 1	サザン・クロス	ウィリー・ジェファーソン	0	0	1	1	1	准尉	生還	無傷		
	7 1	F 1 1	ノーザン・クロス	クリストファー・サイラス	0	0	2	2	2	准尉	生還	無傷		
	7 1	F 1 1	ヴェガ	バジェロ・ロドリガス						中尉	戦死			
	7 2	B 5 7	ハリケーン	レオ・ブラッドレイ	0	3	2	4	3	少尉	生還	無傷		
				ディアス・チャレンジャー				1	0	1	少尉			
	7 2	B c n	タイフーン	ギンゾウ・テル	0	2	9	4	9	少佐	生還	無傷		
				ユリウス・ブランド				2	4	3	少尉			
	7 2	A 7 B	歌舞伎	ジュン・ミズサワ	0	3	9	7	6	少佐	生還	無傷		
	9 9	B P h	虎豹騎	ロン・シャオレン	0	0	7	5	1	3	少佐	生還	無傷	
			ヴァイ・ツォリン				5	3	3	准尉				

	99	BPh	フェンリル	アーサー・ベリー セイ・シキフネ	0	047	8	大尉	生還	無傷
	99	530	昇竜	リュウ・シキフネ	0	0173	35	上佐	生還	無傷
秋信敏男	70	F11	—	C. G. ホーン	0	02	2	准尉	生還	無傷
	70	F8H	—	H. ストメル	1	056	6	大尉	生還	無傷
	71	F11	—	井上 博之	0	03	3	准尉	軽傷	少破
	71	F5A	—	J. M. ワード	0	050	5	大尉	生還	無傷
	72	100	—	J. マスコット	0	28	2	准尉	生還	無傷
	72	Jgr	—	D. ゴードン	0	375	6	少佐	生還	無傷
	72	BPh	—	S. Venturs D. A. ドノバン	0	497	13	少佐	生還	無傷
	99	AH1	—	G. ホルバッハ M. シュルツ	0	024	3	中尉	生還	無傷
赤木崇敏	70	J35	Chorus2	李 先念	0	011	2	少尉	生還	無傷
	70	J35	Rhapsody2	イヴン・サワード	0	011	2	少尉	生還	少破
	72	BPh	Fantasia	ジュリオ・グラムシ	0	291	7	少佐	生還	無傷
	72	PhD	Etude	レナード・ウォルポール バートランド・ラッセル	0	388	9	少佐	生還	少破
	99	A1H	Rondo2	ニコル・デュロン	0	012	3	少尉	生還	無傷
	99	A1H	Impromptu2	セザール・フィゾー	0	012	3	少尉	生還	無傷
	99	B26	Ballad2	フランツ・マイヤー アントル・ドラティ	0	012	3	少尉	生還	無傷
	99	B26	Recitative2	バルナード・ハイティンク ヤーン・フールネ ピエール・ブーレーズ	0	012	3	少尉	生還	無傷
	99	B45	Capriccio2	ウィリアム・ティズレイリ ロジャー・ブラッドリー アルツール・フィードラー	0	03	3	准尉	生還	無傷
	99	PhD	Aria	アウグスト・シュレーゲル アントン・シェーンベルク	0	081	13	少佐	軽傷	事故
菊川智範	70	100	ブリジストン	ダン・マッキンタイヤ	1	04	2	准尉	生還	無傷
	72	A6A	赤い竜	司馬 炎 ロビン・オルズ	0	380	6	少佐	生還	無傷
	72	A7B	HEXAR	E. アッパ	0	277	6	少佐	生還	無傷
	99	A6M	月光	ジェームス・F・ロウ	0	01	1	准尉	生還	無傷
	99	AH1	イーグル・フライト	エリス・ウィリアムソン マックス・F・キャメロン	0	08	2	准尉	生還	無傷
	99	A7B	青の虎	司馬 光	0	088	6	少佐	生還	無傷

	99	B26	Gorgon	グスタフ・ラムステッド ウィリアム・リフー ロバート・リリュエ	0	230	3	中尉	生還	無傷
横山友紀	90	04S	オメガ	SIREN	1	112	2	少尉	生還	無傷

☆申請機略号

04S…F-104Sスターファイター

次 回 の 作 戦

《イザベリア軍》

大佐：野戦基地Aを拠点に、新たな連中のアジトを捜す。敵がどこでどう入手したか知らないがF-4Eまで投入してきたことが報告されているから、充分警戒するように。70飛戦は基地上空の滞空警戒、71飛戦は自ら囮となって敵飛行隊を誘き出し、そのデータから敵基地を割り出す。72飛戦は地上の痕跡を探り、同じく基地を捜す情報集めだ。この任務にはあまりやたらな武装は役立つまい。99独飛は基地周辺でゲリラ狩りだ。

☆部隊編成

〈野戦基地A〉

飛行第70戦隊 (CAP)

飛行第72戦隊 (対地)

飛行第71戦隊 (対空)

独立飛行第99中隊 (対ゲリラ)

コートニー中佐：空母「アイゼンマオアー」へようこそ。本艦はそろそろ艦齢30年を越さんとする老嬢だが、その戦闘力はまったく衰えを見せていない。むしろ最新の電子機器によってより強くなっている程度だ。諸君の任務を伝える。これより南ベトナム沿岸へ展開し、わが国国民の安全を守るため、北ベトナム軍の攻撃を阻止する。敵軍は単なる土民の集まりではなく、狡猾なベテランの戦闘群である。心してかかれ。解散！

〈ベトナム沿海〉

空母アイゼンマオアー VF (VA直掩) VA (爆撃)

《イエール共産軍》

大佐：敵は例の野戦基地を自らの物にし、そこから作戦を展開していくつもりらしい。愚かな話だ。我々はこの愚行にはつきあわない。反対の方角にあるブニユの油田を爆撃し、腐敗しきった資本主義経済に大きな揺さぶりをかける。ブニユの守備隊は大量の対空ミサイルを保有して精強を誇っているが、恐れる必要はない。攻撃と呼応して我がゲリラが警戒サイトを奇襲、警報発令が大幅に遅れる手筈になっている。

また、北ベトナムへ義勇兵を派遣することになった。現地で相手となる米軍部隊はその多くが実戦によって選りすぐられ、経験を積んだベテランであるが、同時に戦闘恐怖症で麻薬漬けになった半廃人たちの集団でもある。恐れることはない。そして帰還の暁には真の英雄として迎えられるであろう。こちらは現地軍の指揮下に入ることになる。

★部隊編成

〈野戦基地〉 90RW (護衛)

99RW (対地)

91RW (輸送機迎撃)

〈北ベトナム〉 (飛行隊設定は無し)

20系客車のこと

今回は20号ということで表紙絵に「ノースロップF-20」を期待していた方、残念でした。今回は汽車です。とはいえこの本を読んでいる大多数の方にはピンと来ないような気がします。この「20系客車」というのは、戦後ようやく高度成長の兆しを見せ始めた昭和33年の日本に登場した、「元祖ブルートレイン」です。もちろん当時の日本の鉄道技術の粋を集めて造られたもので、その内容は外と比べるべくも無いものでした。B寝台車を除けば、おそらく今の新型車両ともタメを張れるはずです。「動くホテル」の二つ名を与えられている所以でもあります。

見事な内装の第一は個室A寝台でしょう。写真資料はあまり残されていないのが残念なのですが、「ルーメット」と称される豪華な一人用個室寝台と特に名前は有りませんが二人用の個室が新製時から用意されていました。しかもそこには現在の寝台車が備えている設備のほとんど——完全空調、読書灯、折り畳みテーブル、収納式流し——が設置されていたのです。ここでそれが進駐軍のための物ではなく、完全に国民のために用意されていたという事に注意する必要があるでしょう。戦前でさえも、そんな豪華なものは無かったのですから。また驚くべきことに、現在ある個室A寝台よりも、ずっとゆったりした造りであったことも特筆されます。欧米から輸入したのではないかと思うほどですが、完全に日本の技術で造られた物なのは確かです。

第二には完全空調が挙げられるでしょう。今でこそ当たり前ですが、登場当時は革命的とも言える装備だったのです。それまでは夜行の寝台でも非冷房なのが当たり前だったのですから。

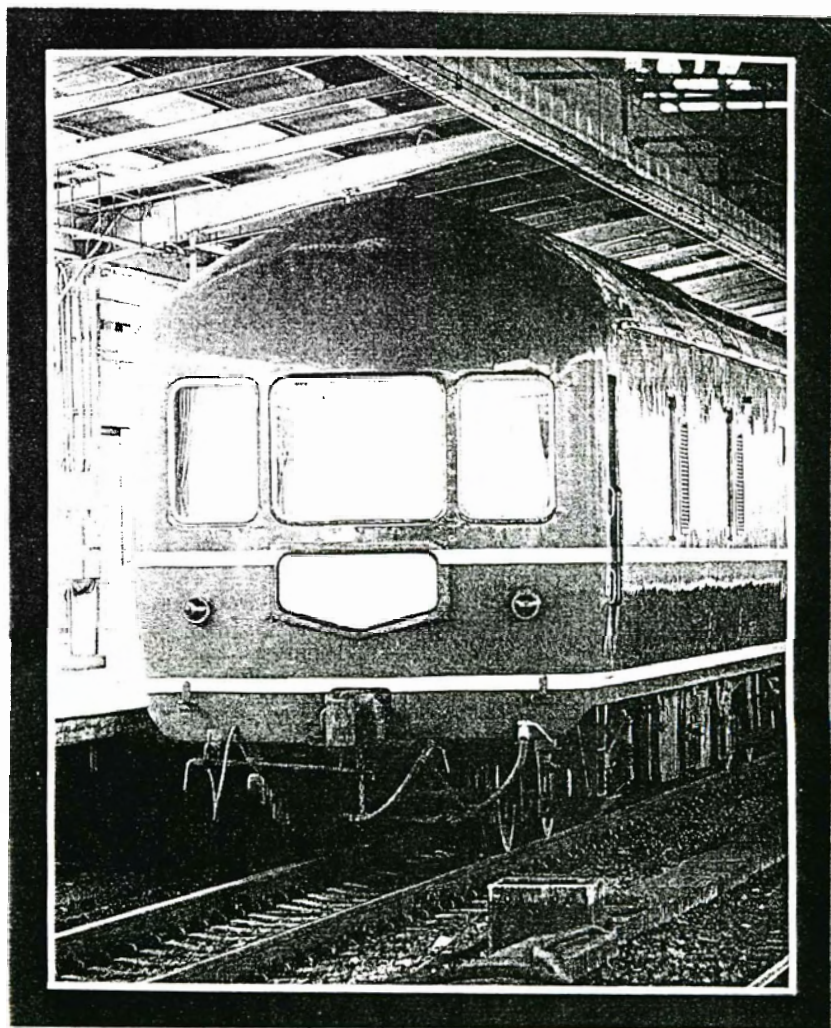
第三は展望室です。これは、編成端が半室そのスペースに充てられているだけですが、この形式を最後に定期運用から「展望車」の存在は絶滅しています。以前にも書きましたが、車内からは夜間何も見えません。ですが、気分転換のためのスペースとしては、狭苦しい廊下よりも貴重な役割を果たしていたのではないかというのは考えすぎでしょうか。

逆に当時の設計ですから、優等車が力いっぱい豪華にされている分普通車が詰め込み型になっています。一番目立つのはやはりB寝台車の寝台幅ではないでしょうか。なにしろ昭和30年前後の日本人の平均的体格をもとにした設計ですから、現在の目から見ると相当窮屈になります。しかも当時の標準、3段式をそのまま採用したので、寝台使用時は正に「蚕棚」の様相を呈する訳です。実際は編成の大部分をこのB寝台が占めていた訳で、それが後にB寝台を拡幅した新型客車が登場した時に、急激な代わりを促進する結果となったのです。見方を変えれば、現在はA寝台のグレードが下がった分B寝台の方が良くなって、均質化しつつあるということになりましようか。それであの料金格差は納得がいきませんが。

他に二等座席（グリーン）車や三等座席車も用意されましたが、こちらは座席として高採算を図った割には利用率があまり良くなく、あまり経たずに寝台に改造されています。

ところでこの20系、驚くべきことには、食堂車も含んで12年間にわたり19形式473両もの大世帯を形成していながら、（100両近くはなお現存）その編成のラインを崩すものがまったくと言って良いほど無いのです。現在の花形24系25型は「ソロ」「デュエット」などの「特殊」車両はどこにいるか、一発で見分けることができるので、「洗練」という点では逆に退化しているとも言えるでしょう。とにかく、20系の編成と言え間に何がしようと、電源車から最終車まで「一本」の編成美を誇ったのです。

現在、20系単体での定期仕業は一本も残っていません。「シュプール」「カートレイン」などの臨客輸送で細々と余生を送っていますが、皆さんもこれに当たったときは古くからと軽く見たり手荒に扱ったりせず、大事にいたわってやるよう、お願いします。
何と言っても、日本の鉄道文化の一つの記念碑なのですから。



例の「直キッス事件」以来「怪しい仲」が噂された春日と朝比奈だが、その後やはり噂通りの展開になった。ほとぼりがさめ始めた月初めの昼休み。そろそろ5時間目が始まるとういう時になって、決然と席を立った春日は、クラスの注視をものともせず、朝比奈のすぐ脇へ行き、

「誰よりも何よりも愛してるの」（ポ）

一言も淀まず言っただけで。どよめく教室。他のクラスへ伝令が飛ぶ。

「春日が告白した！」

その一言だけで十分だった。次の瞬間には女子高1全体に広まったが、次の授業を考えて席を立たないだけの理性はまだ彼らに残されてはいる。高1Aにもすぐに先生が入ってきた。

次の休み時間までに、各教室単位で賭が張られた。もともと「共学」の割には男女間交流が乏しい学校である。そのテの噂は枚挙に暇が無い。だが公然と行われるのは珍しい（当然である）から、賭の対象になる訳だ。

その授業は国語だったが、全体に妙に落ち着きが無かったのは否めない。そして、問題の10分休み……告白タイム。春日が再び朝比奈のもとへ歩いて行こうとすると……

「来ないで！」

朝比奈は悲鳴にも似た声で彼女を拒んだ。そして机に突っ伏すと、そのまま声も上げずに泣きだしてしまった。

賭は「フラれる」方の勝ちである。「成立する」方に賭けた者（少数）が春日を慰めようとするが……彼女は彼女で、何かカン違いしていた。

「いつかきつと叶えて見せる！みんな、応援してよ、ね、ねっ！」

……ちよっと違うんじゃないか？

* *

高1Aの正熊曜平は放課後になると、しばしば女子部に出かけて行って、自分なりに「宇垣事件」の調査を始めていた。具体的には、宇垣が、撃たれる直前に行き先を誰かに言い残していなかったか、という点に絞られていた。

風紀委員を装って、まず寮の職員に宇垣の部屋の位置と、その近くの生徒を調べ、彼らを重点的に洗ったのだ。

だが、意外に答えは得られなかった。彼女たちが一様に答えることには、「宇垣は煙草をやりて夜もしばしば外に出ていたから、いちいち気にしていない」のである。逆に、興味深い情報も得られた。

「シーツをはたくような音がしたが、今思えばそれが宇垣を撃った銃声だったのかも知れない」

これは、宇垣を撃ったのがサイレンサー付きの銃だったという県警の鑑識結果と一致した。だが、それ以上の進展は、なかった。

* *

春日も事件直後からそれとなく風紀委員会の上層部に「ヨナイ」についてカマをかけるようになっていた。宇垣があれだけの憎悪を抱くに至った人物であろう。そう思って、宇垣の「射殺」を凶ろうとするのは風紀委員会に他なるまいと考えた訳である。

だが、結果はあまりはかばかしくなかった。「調査」が裏目に出て自室で盗聴機らしき物がひんばんに見つかるし、委員会内でも前以上に疎外されるようになっていた。データファイルを漁ろうにも、漁る資料が無くなっているのだから、どうしようもない。今更ながらあの金髪女が恨まれる。

* * *

月が変わって初雁艦隊に、新しいメンバーがやって来た。中1Aの野木坂若葉が指揮する「島風」級駆逐艦「島風」である。今までは中3の重巡洋艦で操船係だったのだが、配置転換でこうなった訳である。はじめこの情報を伝え聞いた者たちは、野木坂を憐れんだものだった。初雁艦隊は往年の栗田艦隊の伝統を受け継いで、艦隊訓練の厳しきでは女子部で一二を争っていたからだ。そしてマニア度でも。

だが、実際に哀れだったのは、むしろ初雁の方だった。何しろ野木坂の「島風」は、目が点になるような改装を施してあったからだ。

最も目につくのはその色だろう。吸磁性塗料（といっても所詮気休めのオモチャではある）の黒一色で、艦首と艦尾に若葉マークが描き込まれていた。艦尾の旗竿には喫茶店によくある「氷」のぼりが誇らしげに掲げられていた。初日の出港時に艦列を組んだ時、おもむろに後についてきたその艦を見た時、周りを見張っていた初雁は思いつきりズッコケかけた。横にいた春日に至っては本当にズッコケた。

意表を突かれたのは、このところ毎日のように初雁と演習している菅原絵馬とて同様である。

ただ、その日は二人が干戈を交えることはなかった。菅原の方で予め「話がしたい」旨、アポを入れていたから。

「竿灯」は空母で、接舷することができないので、菅原は僚艦のタイコンデロガ」級の方に乗っていた。どうせ戦闘指揮はないのだから、それで困ることはない。その代り、初雁の方が「タイコンデロガ」へやって来た。

「一体、女子部では何が起こってるん

だ？」開口一番、彼はこう聞いた。「銃がでてくるなんて、ただ事じゃないぞ！」

「その話なら、私の方が聞きたいぐらいよ」初雁は当惑したような表情を浮かべた。「私だって、第一発見者ってだけなのよ！」

菅原は次の句に詰まったが、なんとか続けた。

「危ないことは避けてくれよ。大事な人なんだから……」そこで彼は、しまった！というような顔になり、半ば強引に話題を本題へ持っていった。「と、とにかく何も隠さず話をしてくれ。もちろん他言はしない。信用して欲しい」

ここが艦橋でなくてよかったと本気で思いながら、菅原は冷や汗をかいていた。

「話と言われても」初雁は首をかしげた。「……私は、宇垣さんが胸から血を流して倒れてるのを見て、慌てて救急車を呼んだだけだから……」

「実はそれも不思議なんだ」菅原が話題のとっかかりを得て口をはさむ。

「何であんな時間に、外にいたんだ？それに、提督先輩や春日さんと、何していたんだい？」

「私が信じられる？」

初雁の目付きは、いつの間にか憂いを含んだ悩み深いものになっていた。男子という物、このテの目線には基本的に弱い。一も二もなく菅原はうなずいた。

「……それから絶対に、私が話した以上の詮索はしないって約束して」

「いいよ」

また彼は即答したが、それでも初雁はしばらく迷っている風だった。やがて彼女の口からぼつぼつと語られた「事実」に菅原は驚き、呆れ、言うべき言葉を失った。（前回のリアクショ

ン参照・彼女は一切をしゃべりました)
一通り初雁の話が終わろうかという
ころ、船体がぐらりと傾いだ。不意の
ことで姿勢を崩した初雁が菅原を壁に
押しつけるような格好になって空気が
怪しげになった次の瞬間、この艦の艦
長が血相を変えて息を切らせながら、
艦橋からすっ飛んできた。「初雁さん、
あんたんとこのフネが……とにかく来
てくれ！」

* * *

時間は少し前に戻る。珍しく両艦隊
の艦が船先を連ねる形で並走する形に
なって、男女どちらからともなく自分
の船の自慢が……と言うより、相手の
艦のケナしあいが始まった。それだけ
ならまだかわいいものだったのだが、
いつしか話題は速力自慢に変わって
いた。男子が「うちの艦隊は新型艦で揃
ってるから常時30ノットで動ける」
と自慢すれば、女子が「うちは28ノ
ットで遠距離砲戦ができる」と抵抗す
るといった具合である。ちなみに、
28ノットと言えば時速55キロ前後、
この速度で移動しながら20キロ以上
も離れた目標を狙い撃つのは（しかも
大概は目標も動いている）結構難しい
ものだ。自転車で軽く実験してみると
大変よくわかる。

そして、来るべきものが来た。

野木坂若葉の「島風」である。この
艦は、無改造の状態でも40ノット近
くを発揮するという凶（狂）悪な速度
性能を持っている。ちなみに最近の軍
艦は、出せても30ノットを少し上回
る程度でしかない。それを初雁艦隊が
言った途端、男子部からブーイングが
巻き起こった。そんなはずあるかとい
うのだ。

無理もなかろう。普通はそんな事を
知っているものではない。初雁艦隊が
その事を知っていたのはまさにそれが
「初雁艦隊」だったからで、他の女子
部生ならまず知らない。

当の野木坂はと言えば、その反応が
あまりにもナチュラルだった。

「えー、本当に出せるよ。ほら」

次の瞬間、男子部の生徒たちは自分
の過ちに気がついた。小さな駆逐艦は
みるみるうちにスピードを上げ、あっ
と言う間に白波を蹴立てて見たことも
無いようなスピードで飛ばし始めたか
らだ。しまいには波に乗って跳び跳ね
はじめた。

どうも様子が変わった。

「ヒャー！」

無線スピーカーから、野木坂の悲鳴
が響いた。

「誰か止めてー！」

啞然としたのはむしろ初雁艦隊だっ
た。当然扱い方は知っていると思っ
ていたから。しかしそうでもないらしい。
「ゆ、揺れがきつくて動けないっ！」

操船手らしい声も聞こえる。一斉に、
全艦が追跡に入った。ここが菅原たち
が転びかけた時である。だが、なにせ
40ノット。最も速い艦（皮肉なこと
に初雁艦隊の陽炎級）でも5ノット近
い差があった。どうしようと追いつく
はずが無い。鳩山の指示で全艦載機が
上げられる。周辺を警戒するためだ。

前方にいる船に警報が発せられた。
安全装置が作動するような速度ではな
いにもかかわらず、コントロールを失
っているというのが、実は一番危険な
のだ。しかも、まっすぐ走ってくれる
のならまだしも、波の向きによって進
路も不規則に変わるから、一瞬先の進
路さえ安易に予想することはできない。
初雁は艦橋で頭を抱えこんでしまって、

何も言わない。結局追撃戦の指揮は菅原が取るようになった。

まず最初にとったのは、安直に対艦ミサイルで「撃沈判定」を取って、機関を止めてしまおうというものだった。だがついていない時はとことんついていないもので、ミサイルはことごとく明後日の方へ飛んでいった。

「先輩、ミサイルじゃだめですう……」

新しい声が無線に入ってきた。

「ECM（電子妨害装置）のごつい奴が積んであるんです……」

声の主は有明みどりだった。井村と一緒に「あさぎり」級駆逐艦「しんや」に移っていた彼女は、艦長の井村が空戦だの拳銃射撃だのに気を引かれてしまってあまり出港しないので（真鶴ではよくある事ではある）暇つぶしに細々と艦艇改造業を始めていたのだった。その日も船は港にいたのだが、この事件を聞き付けて責任を感じたのだ。だが、彼女とて打つ手段がないのは変わりがなかった。

「ガス欠になるのを待つしか無いんですう……」

そこで座り込んでいた初雁が、ハタと膝を打った。

「何だ、簡単なことじゃないか」

すぐに無線係からヘッドセットをむしり取ると、自分の艦隊に号令した。

「主砲射撃ヨーイ！弾種選択は実弾、駆逐艦は後列へ退避、目標『島風』……それぞれ照準固定し次第各個に砲撃してよし、急げ！」

「本気か？」

「ハイ、もちろん」

鳩山の問いに初雁は自信たっぷりに答える。

「ウチの連中なら、やってやれない事はないはず」

そうこう言う間にまず「白幡」が初

弾をぶっ放した。砲弾は見事「島風」に命中……したかに見えたが、水柱が消えたあとには、まったく無傷の艦影があった。続いて他の艦からの弾が水柱を林立させる。そして……

「うわ！」菅原がまっ青になった。

「こっちに来る！」

初雁が泡を吹いて気を失う。

数十分にわたるドタバタの後、ようやく燃料切れになった「島風」は、男子部主港内へ「連行」された。

こつてり油を絞られた野木坂は、罰として乗艦を取り上げられて、初雁の目がしっかり届く「白幡」操船係にされてしまった。

* * *

「てエへんだア、てーへんだア！」

月半ばのとある夕方、初雁つばめは女子寮の廊下を、そう叫びながら脱兎の如く駆けた。右手にはまっ白の封筒が握りしめられている。

「てエへんだ親方ア！」

転がり込むように飛び込んだ先は榛名の部屋だった。あまり大変な様には聞こえないが、血の気の引いた彼女の表情が、事の重大さを物語っていた。

「今さっき部屋に戻ったら、こんなものが……」

「わかってる」

そう言う榛名の手には、まったく同じ封筒があった。

「もう手は打ったから、大丈夫。それに彼女は死ねないわ」

「え……？」

初雁は呆気にとられた。だが、榛名の話聞いて、ようやく彼女は安堵の溜息を漏らした。

坂井法子は、行き着くところまで思い詰めてしまっていた。「彼女なりの結論」、それは即ち「死」であった。死に場所を選んだのがDMの零式戦あたりは、最後まで残っていた彼女の執念だったかも知れない。

通常のDM機は、墜落しそうになると、自動的に高度を回復するようコントロールしてしまう機構が付いている。事故防止のための安全装置の一つだが、坂井はそれを解除して、海へ突っ込もうと画策したのだ。

だが、それと覚しき基盤をショートカットしたが最後、肝心のエンジンがウンともスンとも言わなくなってしまったのだ。実は安全装置はその他の分野の物も含めた複数の物が相互に連携していて、どれか一つにでも異常が発生すると電子的に回路が遮断され、エンジンが回らなくなるようになっているのだ。仮に飛行中に異常が発生した場合は、ただちに発進地へ帰るようにプログラムされている。

放課後何人かの所に遺書を置いてからすぐ作業にかかったのに、いい加減日が落ちていて、坂井は焦りを覚えてきていた。模型部の方は全員活動を終わっていて、あたりは静まり返っている。

そこへ突然、物悲しげなアコースティックギターの音が響いてきた。

(私だけの十字架／作曲：木下忠司)

驚いた彼女は弾かれたように音のする方を振り返った。夕日が逆光になって一瞬確認できなかったが、さすがは戦闘機屋、すぐに相手を確認した。

「いつまでやってる気？」

彼女はギターの方は休めずに歩み寄ってきた。傍で見ていればあまりにもクサいのだが、少なくとも坂井はそんな所まで気が回らなかった。

「飛行機で死ぬとはね」

山城は呆れたようにひとりごちながら、坂井と少し距離を置いて腰かけた。そこで初めて音楽は止んだ。

「安全装置に目をつけたまでは良かったけど、高度系に手を出したのはまずかったわね。あれをやると……」

山城の言葉に構わず、坂井は不意に地面に突っ伏し、泣き始めた。

「死なせてさえもらえない……このまま生き恥をさらせと言うんですか……？何故潔く死なせてもらえないんです？」

「……何か、勘違いしてない？」

山城はわずかな憤りを含ませて、静かに諭すように言った。

「飛行機で死のうなんて……考え違いもいいとこだわ。所詮あなたはアマチュアにすぎない。あなただけじゃない。私も、ハルだってアマチュアって事に変わりはない」

坂井は答えなかった。山城が続ける。

「それにあなたがやろうとしている事は現実逃避でしかない。今のあなたは、ただの甘えん坊の負け犬よ」

一息置いて、さらに続ける。

「どうして、負けない戦ができないの。榛名はいつもやってるし、あの麻美にさえできることなのに。勝てなくてもいいのよ。負けさえしなければ」

「それは……勝者の言葉です」

坂井は苦しまぎれに反論を試みた。だが、山城には効かないようだった。

「私がいつ、誰に勝った？」

坂井は返答に窮した。実は5年前に

宇垣を抑えた経験が有るのだが、そんな事を外進生の坂井が知る由はない。

坂井は再び、地面に伏し、泣いた。やがて辺りがまっ暗になり、坂井の気がようやく済むまで、山城は彼女の側にずっとついていた。

翌日、宇垣は意識を取り戻した。

* * *

警察—学校—風紀委員会と回ってきた情報に、春日は今までなかったほどの無力感を味合わされた。宇垣が軽い記憶喪失になったというのだ。「ヨナイ」についてもきれいに記憶が無いらしい。それでは手がかりもへちまも無いではないか！警察の事情聴取では、「ヨナイを殺せ？俺が言った？誰がそんな事を？」

とまで言ったという。お手上げだ。

* * *

夕方、風呂上がりで鼻歌混じりの如月まどかは、自室に入り際に春日に声をかけられた。目がマジである。

「な……にかな？」

気迫に押されて顔面が軽く座撃するのを感じながら、如月は作り笑いを浮かべた。しかし春日はそんな事は気にも止めなかった。

「お話があります」堅い口調でそう告げると、廊下をすたすた歩き始めた。

「来て下さい」

行った先は今は空き部屋の、三河の部屋だった。

「ここなら誰も来ないし、盗聴機もありません」春日はあくまで堅かった。

「全部吐いてもらいます。ヨナイの事、勅使河原の事、M資金のこと……何もかもです」

「座って……いいかな」

如月は答えを待たずに、ベッドの埃を払って勝手に座った。

「どれから話そうか……勅使河原あたりがいいかな。あいつが未だにM資金にこだわってる訳は……M資金を組の資金にして、国際経済を牛耳るため。そもそもあいつが真鶴に入ってきたのも、その為なんだ。あいつのじいさんが、M資金は真鶴に埋蔵されてるのを知ってて、半ば強制的にここに来させた。でなけりゃ早稲多の付属高に行ってたはずだよ。

M資金が実はあのボロ船しか残ってないのはこないだ見たと思うけどね」

榛名があれだけ大切に思っていた「雪風」をボロ船呼ばわりしたのが、春日には少し意外に感じられた。

「実際、私も調べたけど、M資金はもうあれだけしか残ってないはず。もとの記録が曖昧だから、私にもこれ以上は調べられないしね。ずいぶん時間は使ったけど、やっぱり駄目だわ。

ヨナイはねえ……私にもよくわかんない……むぐ！」

春日は突如として、宇垣のガバメントの銃口を如月の口の中に押し込んだ。

「また私だけ除け者にするつもりですか？シンクレアの時みたいに……ヨナイを任されたのは私です。今、何もかも喋べらなければ、あなたを撃って裸にひんむいて、テレビ室に逆さ吊りにします」

如月は焦った。春日の目はいよいよマジになっている。宇垣の銃にまだ血が残っているのも不気味だ。

こりゃ、本当にやるな。直感した如月は、降参の印に両手を軽く上げた。銃が除けられる。だが、相変わらず銃口は彼女の顔面をポイントしていた。

「先輩脅すとはいい根性してるわね」

「時間稼ぎのつもりですか」

「待った、待った！」

如月は芝居がかった口調で、右手をヒラヒラさせた。

「ヨナイってのはさ、宇垣が残した一つのクイズなんだよ、多分」

「それで」

「“ヨナイを殺せ”、これって、太平洋戦争が終わってから、誰だったか旧軍のエライさんが自決した時に残したメッセージなんだわ。真相は今でも謎のままなんだけど、それをこのまま宇垣のケースにあてはめれば、“一番憎い奴を死ぬ目に遭わせろ”ってことになる」

「だから？」

春日はじりじりしていた。

「考えてもごらんよ。宇垣はあと一步で6年皆勤賞がもらえるはずだったんだ。そうすれば内申書にもいい事書いてもらえる事になるし、何より自分の誇りになるでも、それは並大抵のことでももらえるものじゃない……それを邪魔したのは？」

「シンクレア」

「そう、そいつ。だから、シンクレアをぶん殴って意味に取れないかな？」

「そんな安直な……」

春日にできた一瞬のスキを、如月は見逃さなかった。目にも止まらない素速さで春日のガバを払い除け、ほとんど同時にポケットから見慣れない小さな銃を喉元にぐいと押し付けていた。

「たかが外進生の分際でつけ上がって」如月の口調が一変した。「このツケはキッチリ払ってもらおうよ」

春日の目は如月の銃に釘付けで、凍りついてしまっている。

「い、いつの間に……」

そう言うのがやっとの彼女を、如月は鼻で笑い飛ばした。

「ワルサーPPK。よく覚えておくがいいわ」そして続けた。「宇垣は力が有り余ってるえせインテリに過ぎない。海軍バカの襟名に徹底的に張りついて、M資金の事を洗いざらい聞き出しなさい。幸いあのペテン師はあんたの事を信用してる。そして全てを私に報告しなさい。わかっているとは思うけど、私のことを少しでも漏らしたら、あんた警察に突き出すからね」

「そんな事が……」

「風紀委員会室のパソコンを壊した真犯人は、警察にはまだ確定できてない。第一発見者は、あんたよ」

春日は背筋に寒気が走るのを覚えた。

「宇垣を撃った犯人が風紀委員会の記章を着けて、“射撃の手合わせ”を申し込んでいた事は、あの力バカが証言してるわ」

どうやら、如月の命令を呑まざるをえないようだ。

「……いい子ね。最初からそうおとなしくしてれば良かったのよ。わかったらさっさと失せなさい」

ふらつく足で何とか部屋を出た春日の背後に、また何かに憑かれたような如月の声が聞こえた。

「フフ……最後に勝つのは情報を制する者……ようやくあの天狗どもに痛い目を……」

信頼していた「栗田艦隊」が実は一枚板ではなかったことに、春日は今更ながら気付かされるのだった。何の事は無い、如月は艦隊の知覚器官などというものではなく、「自分のため」に「より有利な物」に寄生していただけだったのだ！今日の「シンクレア云々」については信用しない方がいいのは確かだろう。

彼女の受けたショックは計り知れなかった。ショックといえ、朝比奈の

方もあれ以来まったく進展がない。

* * *

井村真知子は女子部の射撃場に通いつめるようになっていた。早坂との空戦に負けたうっぶん晴らしの目的が過分にあったが、もともと西部劇好きの彼女のことである。趣味の要素が無いとは言い切れまい。

ある日例によって「しんや」の方をほったらかしにして射撃場に行ってみると、一ヶ所だけ妙に空いているところがあった。行ってみると、その真中では春日千明がガバメントを撃っている。まだ所々に黒ずんだ血痕が残っていた。彼女の撃ち方はもう「ムチャ撃ち」と言うに等しいほどで、カートリッジを一本撃ち尽くすと、そのチャージの間にもう一本予備の方をぶちまけているといった具合である。

彼女はその後すぐ横へ行って、自分のP7M8を撃ちまくった。やはり春日の様なムチャ撃ちである。

いつしか春日の方が呆気に取られるくらい、井村の撃ちの方が激しかった。撃ち始めたのは春日の方が遥かに先だったし、何と言ってもガバは重い。破壊力はあるのだが、あまり長時間の使用に向いたものとは言い難かった。だから一旦疲れを覚えると、急に扱い辛さが目立つのである。春日の視線に気付いた井村は、撃つのをやめた。

「早撃ちの相手、してもらえますか？」

彼女は丁寧に尋ねてみた。最初の春日の撃ちっぷりに若干気圧されていたせいもあったが、そう出られると春日にも断わるべき理由は無いに等しい。

西部劇マニアの井村としては、お互い向き合って、それぞれのすぐ横に置いた空き缶を撃つ方法を取りたかった

ので、そのまま校舎の方へ行き、教卓に空箱を乗せて高さを稼いだ。

勝負はほとんど五分だった。西部劇でイメージトレーニングを重ね、しかも「本業」を投げうって射撃練習に励んでいた井村と、何度も宇垣たちと手合わせを重ねた春日である。「実戦経験」がある分だけ多少春日の方が優勢だったか。

結果に両者共一応は満足した。

だが、落とし穴というものは意外なところに存在するものだ。この井村との「対戦」が、要らぬ尾ヒレ付きで高1に広まってしまったのだ。いわく、「春日がロリに走った！」

さすがの春日もこれには参った。中2の方は話が回らなかったのも井村にはまだどうということは無かったが、おかげで朝比奈はいよいよ他人行儀になるし、いい事なしもいいところだ。

* * *

翌日、井村は久しぶりに船を出した。「しんや」のテストである。ノーマルの状態でどこまで情報収集できるかに興味があったのだ。作業のほとんどは有明みどりが出したが、前の事もあって彼女はあまり気乗りしなさそうだった。だが井村は事件のことを知らない。

テストの方はまったくダメだった。普通の通信用しか無線は使えないし、レーダーもごく普通。ハードの方もそのままではせいぜい艦隊の前哨用に使えそうな程度だ。やはり「まや」の時のような改装が要りそうだった。

* *

早坂理絵は、放送委員会の定例会の後で如月まどかをつかまえて、言った。

「今度の宇垣さんの事件について、放送委員会では追わないんですか？」

「例えば、どんな？」

如月はいつもと変わらない明るい表情で応じた。春日がこの場に居合わせたら、どんな気がしただろう。

早坂は予め用意していた腹案を話し始めた。彼女の計画最後まで聞いていた如月だったが、話が終わりまで来ると、おもむろに早坂の肩を叩いた。

「ご苦労さん。でも、それは警察の仕事だよ」

「でも……」

いつもの如月とは少し言うことが違う。本能的に早坂は気がついてた。

「悪いこと言わないから、ね？」

如月は笑顔でそう言いながら、委員会室を出ていった。

「なーにが、ね、や……」

早坂は呟いた。絶っ対っつに、何かウラがあるに違いない。

* *

女子部の野木坂の事を正熊が聞いたのは、例の事件があつてずいぶん経つてからのことだった。いっぺん会つてみたいと思つてはみたものの、初雁艦隊の事だからぎりぎりまで帰つてこない。初雁がいない時は春日が指揮を取るようになっていたから、なおさらである。同時に正熊はMAでも3Kで知られる(きつい、汚い、怖い)歩兵隊だから、いよいよ会える機会は限られそうだった。

日曜の夕方、帰港してきたところを何とかつかまえた正熊は、単刀直入に

聞いた。

「盗聴機、作れる？」

突飛な質問に、猛訓練でヘロヘロになっていた野木坂はきよとんとなった。

「……作れなくはないけど……買った方が安くないかなあ？」

彼女は彼女なりに、

i 自作しても性能はともかく大きくなってしまう。

ii むしろ「敵」の盗聴機を見つけて、利用した方が得では？

などと考えたのだ。そこでこう提案した。

「逆探知機作るから、それで敵の奴をもらっちゃおうよ」

「あ、その手があるか」

正熊はすぐに同意した。その方がお手軽なのは確かだ。

初雁をうまく言いくるめて、野木坂は次の日曜日に材料を仕込み、有明みどりと共同で週半ばまでには完成させた。日中に有明がさっそく使つてみたが、宇垣の部屋には何もなかった。

次に、野木坂の方が夜に如月に会いに行つた。何を考えてか、頭に紙袋をかぶり、ヘリウムガスで声を変えての訪問である。しかし意味はなかった。

「野木坂さんね、1Aの」

如月はくすくす笑いながら紙袋を外した。

「よくぞ見破つたなタケちゃマン」

何で知ってるんだそんなネタ。

その頃には声も元に戻つてた。例によって盗聴機がないのを確認しながら、野木坂は話を切り出した。

「匿名にしたのがあっさりバレちゃつたのは驚きました」

また如月はくすくす笑いだした。

「ああ、あれ、あなただったの」

野木坂は目を丸くした。

「語るに落ちるつてのはこの事ね。ず

いぶん簡単にひっかかるとは……拍子抜けもいとこだわ」

身の危険を野木坂は感じた。

「ま、これでおたがいイーブンね。そんな物まで用意したって事は、仲間になりたくて来たんでしょ？安心していいわ、ここに盗聴機なんてないから」

しばらく如月の話を聞いて、野木坂は質問した。

「栗田艦隊のエライ人の他には、どんな人がいますか？」

如月は親切にも何人かの名を挙げたが、その中には春日の名も含まれていた。他にも如月はいろいろなことを教えてくれた。例えば野木坂の「逆探知機」を見て、改良すべき点をいろいろと指摘したし、校内で主に使われている（重点的に調べるべき）盗聴機の周波数もいくつか挙げた。物理の知識をかじっている野木坂には、それが妙な飛び方をしているように見えたが、別段気にはならなかった。それでとりあえず、その日はおしまいだった。

* * *

宇垣の面会謝絶が解けたのは月末も迫ってからだが、それでもまだ一日30分以内の制限付きだった。警察の宇垣への事情聴取がそれ以前にかなり進んでいたから、それをあまり気にしなくて済んだのは生徒には幸いだった。

例によって混乱を避けるために「宇垣見舞い」は宇垣一家によって仕切られることになったが、面会解禁初日、初雁と坂井は「宇垣じきじきの指名」ということで、山城の引率で小田原へ出た。榛名は当初初日のメンバーに含まれていたが、「四人は死人につながる」と縁起をかついで、自ら他の日に変えていた。

まず初めにその事を山城の口から聞かされた宇垣は、「あいつらしいや」と呟いた。悲しげで、坂井にもずいぶん後々まで残る声だったことは確かだ。

彼女はまだ自力で起きられるほどは回復していなかった。だが、ベッドが起倒式で、彼女は少し起き上がって迎えてくれていた。

「噂じゃ肺を貫通してたそうじゃないですか」初雁は言った。「22口径とは言えシリアスなマンガなら死んでたところですよ」

「いや、これも御仏のなせる技よ」

宇垣は不敵にニヤリと笑った。やはりこの方が似合っている。そこへすぐ山城がカウンターをかませた。

「じゃ、次は9パラに挑戦ね！」

「近いこととつくにやってるよ」

そう言いながら、宇垣は雑誌版の体裁の本を山城に手渡した。しおりのはさんであるページを開いてみると、中折式の拳銃の写真が何丁か載っている。「トンプソン・コンテNDERだ。お巡りにもその事は話した。間違いない」

彼女は、まだ本調子ではないのだろう、時折深々と息をつき、考え込みながら三人に、何故こんな事になったか、その理由を語った。それによると、事件当日の昼休み、見慣れない顔の風紀委員の胸章を着けたものが（男か女かは思い出せないらしい）早撃ちの腕試しを持ち込んできた。更に彼女はあまり見られたくないで夜にやって欲しいと頼んできた。前に春日の例も有るし、また、宇垣は例の如き性格であるから、もちろん快諾した。それがそもその始まりだった。

「ところが今回の奴は、単発中折式なんてふにやけたハジキを使っていた」

「するとナメてかかったわけね？」

山城が聞いた。

「ナメてたせいで本物だったのに気付かなかったのね」

「面目ないが、そういう事だ」

坂井を驚かせたのは、この時の宇垣と山城の態度である。宇垣はこの時ばかりは呻き声をたてるのをやめ、むしろ陽気な、そして憑物が落ちたような、さっぱりとした表情になったからである。山城の方も、

「あなたはプロではなかった」

と世間話をするときのような冷淡な言い方をした。

「少なくともあの日は、アマチュアだった。自業自得のようなものね」

「まあな。奴らは勅使河原が逮捕された腹いせに俺を殺すことで、組の体面を保とうとしていたわけだ。嫌な音が続けざまにしたよ。一つ目は大きな銃声で、もう一つは骨折の小さな音。その瞬間に、田舎番長宇垣麻美様はこの世から消えた。もっとも朗報が一つある」彼女はそこで自嘲するような笑みを浮かべた。「禁煙せざるを得なくなったよ。片肺になったんでな。これで逆に健康にはいい」

「かわいそうに」

山城が持ってきた梨をむいて宇垣に渡した。

「いいのさ。おめえさんの台詞じゃねえが、自業自得のようなものだからな。ところで22口径が貫通した謎だがな……実は俺にもからつきしわかんねえ。それに、俺は最初、てっきり4マグで撃たれたんだと思ってた。少なくとも357マグのはずなんだが……お巡りの話じゃ、22LRで間違いないってんだ。俺があの時見た口径は、そんなチャチなもんじゃなかった」

そんな事を言われたところで、山城以下3人にもそれほど拳銃知識がある訳ではないから、訳がわからなかった。

どうやらこれは学校で誰かに聞く必要があるらしい。

「さてっと坂井。今日おまえを呼んだ理由だがな……自殺しかけたらしいな」

坂井には答えられなかった。いつの間にか戻っていた宇垣の鋭い眼光に射すくめられていたというのが正しいところだ。宇垣は浴衣の胸をはだけた。上半身の大部分がサラシならぬ包帯で巻かれている。

「俺がこんなじゃ力技はできねえし、……お前にはいい支えが要る」

「そんな事を言うために！」

坂井は恥ずかしさから逆上しかけた。椅子を立ててドアまで行きかける。

「帰ります」

「じゃあ、カードをやろうじゃないか。まあ坂井、そこのカードを出しな」

宇垣はサイドテーブルの上のプラスチックケースを指した。

「さあ、俺の横に来な」

「だって……」

「お前、それでもハルの弟子か」

坂井はまっ青になって戻ってきて宇垣の横に座った。そして、のろのろとカードを取り出した。

「よくシャッフルしてから、掛け布の上に置く」

坂井は言われたとおりにした。

「ルールはこうだ。お前と俺で、一枚ずつ代り番こにカードを表にしていく。で、先に絵札を表向きにした方が負け。先に絵札を表向きにした方は相手の言うとおりにする。いいな」

「簡単すぎます、そんなの」

「じゃ、俺からな」

宇垣が引いたのはハートの10だった。彼女はそれを表向きにして手元に置いた。坂井はクラブの8を引いた。宇垣の番になった。カードを反らせて隅の数を見る。ハートのキングだった。

宇垣はわずかに動揺して見せ、初雁に
「お前、ヤニ持ってるか」
などと言ってみたりもした。
「先輩、ズルはなしでしょう？これ、
絵札なんでしょう」

坂井はそのカードを表向きにした。
「ほら、やっぱり絵札じゃないですか」
「ひっかかったな、坂井。お前だぞ、
このハートのキングを表にしたのは」
「あ。そういう手、ありますか」
「先に表向きにした方、先に表向きに
した方と、何度もうるさく言ったろう
が。その時に罨に気付かなきゃだめだ。
坂井、これが宇垣麻美から坂井法子へ
の、最後の授業だ。初雁も覚えとけ」
山城が椅子を立った。そろそろ時間
らしい。宇垣がいつものニヤリとした
笑顔を取り戻して、坂井を指差しなが
ら初雁に付け足した。

「奴と仲直りしろよ、寮に帰るまでに」

初雁は照れて赤くなった。

山城が坂井の背をそっと押す。

「達者でな」

宇垣は声だけにした。熱で肩がきし
み始めていたし、無くなった右の肺の
辺りがまた痛みだしたし、声をかける
外仕方がなかった。だがハタと思いつ
いた事があって、山城を呼び止めた。

「なあ英理、ブン屋はどうしてる」

「何で？」ブン屋とは如月のあだ名だ。
山城は不思議そうな顔をして振り返っ
た。「別に何とも？」

「いや、そんならいいんだ」宇垣は軽
く首を傾げた。「何かこう、しなきゃ
ならん事があるような……」

「明日呼ぼうか？」

「どうせ来られても悪い出せないんだ、
そこまでしなくていいよ。でも何だっ
けなあ……」

そのやりとりは坂井たちにも聞こえ
たが、何のことかはわからなかった。

のろのろと病院を後にした坂井だっ
たが、帰りの汽車が真鶴に着く頃には、
初雁との仲もすっかり元通りになっ
ていた。

* * *

その翌日、見舞いから帰った榛名に
よって、正式に宇垣一家の「解体」
が宣告された。その晩——

春日千明は例によって海戦術につ
いて初雁の教えを受けようとしたが、部
屋には坂井しかいなかった。

屋上に行ったと聞いて上がってみる
とそこには、相模灘の方を向いて一人
座りこんでいる初雁の姿があった。

静かに歩み寄ってみると、何と彼女
は喫煙していた。春日に気付いて、初
雁はおもむろに呟きだした。

「チィちゃん……いろんなことがあ
ったよねえ……」

「うん……」

しばらく無言が続く。

「私達の宇垣一家が、消える。……鉛
弾一発で、ゴミのように飛ばされる。
……勅使河原みたいな一握りの金持ち
は……逆に、予め決められた出世コ
ースを昇る……」

初雁はそこで、新しいキャビンに火
を点した。いつの間に吸うようになった
のかと春日は思ったが、黙っていた。
彼女のライターは、宇垣が使っていた
物だった。

「今度だって、詰腹を切らされたのは
零細の下部組織まで……勅使河原は
形式的な処分だけで、ほとぼりがさめ
たら何事もなかったように予定通り釈
放されて裏口進学だ。……現役ではい
くら人格が優秀でも、ペーパーテスト
に受かんないっていう理由だけで、一

生夢がかなわない連中がうじゃうじゃいる……そんな連中は、毎度こんな例を見せられる。……士気を失う。……節度を失う。……誇りを失って非行に走る。思い切ってそこいらへメスでも入れようとするればクーデター、宇垣一家の解散だ……！」

春日には返す言葉が無かった。



その他のリアクション（含公開私信）

・東 大鳳

榊 裕 の MA 強化案 に 協力。
M60A1 戦車へ移籍。

・井村 真知子

その他はなし。

・野木坂 若葉

先輩、多いよ！装備は「島風」のはずだったけど……ご覧の通り。

・早坂 理絵

その他はなし。

・影月 多紀

？

*沖田 玲郎

自動車部開設運動開始。男子部で人気。実車は二輪も校則上不可。指定装備はF-4C。（後席手有）

*榊 裕

MA強化案は男子部MAから好感を持って迎えられている。女子部領域への「実戦テスト」では迎え撃った加越京子隊（90式戦車×8）を一瞬で撃破した。

・立花 陽明
？

・正熊 曜平

MA。M14A1の歩兵隊。

・エディ 光次郎

？

・桐野 薫

指定はRF-4E。持込みのSF57偵察型ビゲンでの「偵察」は大体成功。菅原×初雁の演習にも仲間に入れてもらえた。ただ写真は少しブレていた。「写真プレゼント」は好評。

・菅原 絵馬

その他はなし。

・朝比奈 美雪

？

・梅田 香奈

？

*春日 千明

裏山の方には誰も来なかった。ただみんな興味は持っているらしい。

・伊藤 早苗

？

・坂井 法子

その他はなし。

校長より（そのいち）

模型部関連では前回の説明不足がたたって坂井さんのあの様なアクションを誘発してしまいました。これは一方的に私のミスです。

こと保安関係については以前より細かくなっていますので、死なない程度の体当たりなら何とかできますが、明らかに死亡する意図的な墜落やその他自殺行為にDMは使えません。ただ「体当たり」も「エアークンバット」で難しさを理解しましたので、並大抵のことでは失敗することを予め書き添えておきます。

それからプロペラ機の制限は改訂版ルールから撤廃します。事後承認の形になってしまって申し訳ないのですが。

しかし……坂井が立ち直ったかと思えば、今度は春日さんと初雁が沈んでしまいました。初雁はNPCだから意図したものではあるのですが、春日は半ば「巻き込まれ」。何とかできんかなあ。逆に言えば、このイベントが用意されていたので坂井に立ち直って欲しかったんだけど。どきどき。

今回はこころでページ・時間切れ。「その他」には書き切れなかった分もあります。その点では早い人ほど有利なんだけど……ごめん。良かった人には*印を付けましたので、その調子でやってって下さい。大分良くなったような気がします。やっぱり言うてはみる

もんだ。とにかく、締切り間際だの、過ぎてからリアクションが届くような事は無いように。私だって考える時間は欲しいのです。

それから校則についてですが、生徒は自転車以外の二輪は持ち込み禁止になっています。また、男子の長髪は月曜の朝礼で服装検査があった際、注意されます。あんまりひどいようだとその日のうちに職員室で「適当に」カットされます。肩にかかるかかからないかが限度でしょう。菅原君と桐野君はその点で爆弾を抱えているので要注意。

新部開設の方法ですが、一番手っ取りばやいのは軽音班のように似たような活動をしているところに寄生すること。今回の自動車部みたいな場合は交通研か物理部に寄生するスタイルになるでしょう。

正攻法はちょっと難しいです。何人かが集まって、誰か手の空いている先生に顧問になってくれるように頼み込んで、それから生徒会顧問の先生に届けなければなりません。口で言うと簡単なようですが、先生が顧問になりたがらないし（余計な仕事が増えるから）時間がけっこうかかるのです。

今回のPC及び主要NPC（保留6）

中学 男子部 1年A組 東 大鳳

女子部 1年A組 野木坂 若葉

2年A組 有明 みどり 井村 真知子 早坂 理絵

高校 男子部普通科

1年A組 沖田 玲郎（影月 多紀） 榊 裕（立花 陽明） 正熊 曜平

3年F組 加賀 実

理数科

1年H組（エディ 光次郎） 桐野 薫

2年H組 菅原 絵馬 鳩山 平和

3年G組 赤城 広義

女子部普通科

1年A組（朝比奈 美雪）（梅田 香奈） 春日 千明

2年A組（伊藤 早苗） 加越 京子 坂井 法子 初雁 つばめ

F組 永野 伊勢

3年D組 霧島 宏子 栗田 はるな 長門 洋子 扶桑 和子

F組 宇垣 麻美 如月 まどか 栗田 榛名

校長から（そのに）

I'm so tired, I haven't slept a wink

I'm so tired, my mind is on the blink

I wonder should I get up and fix myself a drink

No, no, no

I'm so tired I don't know what to do

I'm so tired my mind is set on you

I wonder should I call you

but I know what you'd do

You'd say I'm putting you on

But it's no joke, it's doing me harm

You know I can't sleep, I can't stop my brain

You know it's three weeks, I'm going insane

You know I'd give you everything I've got

for a little peace of mind

I'm so tired, I'm feeling so upset

Although I'm so tired I'll have another cigarette

And curse Sir Walter Raleigh

He was such a stupid get

(THE BEATLES, "I'M SO TIRED")

三 等 雑 居 室

F A。

☞(前略) ジェット機に詳しくない私には、「ファントム無頼」と「エリア88」が参考書となります。この限られた知識で考えるに、ジェットで注目すべきは電子戦とミサイルということになりましょうか。個人的に二次大戦機が好きなのは、一式陸攻は別として、そうそう撃墜されなかったことにあります。表現上の誤解を避けるために更に言っておきますと、現代戦ではミサイルが当たればまず助からない。あっという間に戦闘が終わる。まさに味気ないといしか表現できないものです。また、二次大戦という歴史が、それぞれの戦闘機を特徴付けているので、余計にジェット機、それも最新鋭機に対しては偏見を持たざるをえないのかもしれない。とにかく、そんなことを思いつつ、ジェット戦闘機を見るに、電子戦とミサイルが大きな要素として上がるでしょう。(戦闘妖精「雪風」みたいな世界を、すぐに連想してしまう)

というわけで、F Aではミサイルに関してはフォローしていますが、電子戦についてはどうなっているのか、ということなんですけど。まあ「敵は海賊」のラジェンドラじゃないんだから、CDS攻撃なんかはできないだろうけど。

蛇足ですが、トムキャットは空母機だというイメージが強い。やはり空母を出すべきでしょう。そう、超伝導プラズマ原子力空母を。あと、ファントム。F-4については、神・栗コンビの百里基地のものイメージしかないの、相当な無茶のできる万能機というイメージしかないですね。イーグルやファルコンについては、もはやどうでもいいといった感じで。確かにオーバースペックというか、何というか。そういえば、タイガーシャークとか、ホーネットとか、いつ出てくるのだろうか。

いや、話が大幅にそれで混乱していますが、気にしないように。そろそろ終わりますから。ええと、私の場合、イメージによって好き嫌いがはっきりするというのが結論ですか。あ、あと「地上空母」やら「対空地雷」が出てくる予定って、ありますか？(ああ、全然話がまとまってない……)

(東京都・篠原崇)

㊦ASシリーズの電子戦については、一応サポートする予定ではいます。いますが、70年代初頭の段階ではまだE A - 6 Aが最新型とかいうレベルなので、キャラが使う機体には装備されていないと見る方が自然でしょう。ECMポッドなど期待できるべくもありません。ただ、この手のシロモノは常に情報が少ないので、結局出せないか、あるいは出ても選択もヘチマもない単純なものになる気がします。

空母はお待ち遠さま。イザベリアでようやく空母篇が始まりました。当然のように「アイゼンマオアー」(何代目になるんだろう?)です。同時に、イエールもベトナムで大虐殺モードが始まりました。う・ふ・ふ♡(オエ)でも何人そっちに来るのかな……

地上空母やら対空地雷やらは、出ません。「塔」で大ウソこきまくっているの、これ以上の技術的なウソは避けたいのです。機体設定の都合があるので時間上の多少のウソはともかく。第一対空地雷はさておくとしても、地上空母はあの戦域ではまったく意味ナシでは?地形は変化に富んでるし、ほとんどが熱帯雨林なんですよ?戦車の存在についても「?」なのに、それ以上でかい機動兵器があってもしかたないでしょう。

☞（前略）…にしても、先月のFAは…ひどかった。やっぱり爆弾積みすぎは事故のもとですかね？少佐が二人とも事故死とあったから、多分離陸時の事故だと思っんですが。できれば次回から事故の内容も教えて下さい。上位階級の者が死ぬと、周りのみんなが着陸時のエンストとか、離陸時にスティックが壊れて前方の障害物に激突したとか…、いろいろと勝手な事故をでっちあげてよってたかっていじめてくるのです。（カール・ドルス早く墜ちないかなあ）

（中略）F-16/76とMiG-30について詳しく教えて下さい。どういう機体なのかみんなさっぱりで…。できれば次回申請したいと思っています。余談ですが、ときたま学校の図書館でBlowの冊子やキャラシートを広げて私たちが話していると、通りすがりの知人はみな、真鶴をマナヅルでもマヅルでもなく、「シンカク」と立派に音読みしてひとりで納得しています。（以下略）（宮崎県・赤木崇敏）

⑤だからそんなに細かいシステムじゃないんだってば。機体固有の「事故率」があるだけです。どれとは言えませんが「落とし穴機」は設定事故率が8割を超えます。むしろ、そうやって仲間内で盛り上がった方が楽しいんじゃないかな？今は昔の話だけど、ASシリーズはそれを前提にしてもいたんだよ。仲間のいない人は、三雑で投稿するなり、誰か引き込むなりするように。

F-16/76は、F-16Aの電子機器を簡略化して、エンジンをF-4でお馴染のJ76シリーズに換装した廉価版です。性能低下があらさますぎたのと、F-16Aが大量受注で安くなったおかげで一機も売れず、そのままお蔵入りになりました。MiG-30はMiG-29の輸出用簡略型です。これもペレストロイカで標準型が大々的に売りに出たおかげで日の目を見ずに終わりました。基本設計はいいんだけどねえ。どっちも新しい機体なので、FAで申請しても使える機体ではありません。

それにしても「シンカク」じゃ空母の名前みたいじゃないか。ちゃんと地図にも出てるのに…ひどいや。

☞そういえば、どうしてASシリーズでは「エリア88」の名が出て来ないんだろう？

（編集部・岬当麻）

⑥答えは単純です。「エリア88」ももはや五、六年前の作品で、豪華版が出ているほどの「古典」になりつつあるから、サンプルデータとしては不相当だと思うから。私だって、中学から高校にかけて、友人Tから全巻借りて読んではいるんですけどね。だから今までもそうだったけど、今後もASシリーズでは「エリパチ」その他の松本／新谷系戦記物のサポートはしません。

真鶴。

☞まず一つ要望。「その他のリアクション」のレイアウトを変えて欲しい。

具体的には、センターで2ブロックに分けた頁（ネットゲームとか最近の真鶴のRAで使っているスタイル）の左ブロックにキャラシートからコピーした顔絵を貼り、右ブロックに「その他のリアクション（含公開私信）」を添えるとゆーもの。

だってさ、キャライラ少ないし、誰がどんな顔してるか分かんないから絵も描けないんだもんな…。つまんなくって。

そーゆーわけで、どうかお願いします。

それとさあ、「極端な奴なんてそういない」って言うけど、キャラってのはある程度、極端な方が面白いと思うな。……某氏の言葉を借りますか。

「ゲームには現実性を追及する反面、楽しさを求める必要があるのでは？」

いや、まあこれが真鶴のスタイルだってんなら何も言いませんがね。……ただ、そーゆうゲームをずっと続ける気は、とりあえず自分には無いから。

しかし何と言うか、最近のBlowはつまんないっす。……いや、真鶴もPPMも面白いし良いんだけど、何か物足りない気が……うーむ。

あのダミアン鬼崎氏のような、思いっきりパワーのある作品があればなあ……

(神奈川県・渡辺喜一郎)

㊦キャラのアイコン化は盲点だったな。早いうちに何とかしましょう。そのためにも、まだ新キャラシート書いてない人&顔写真に何もかいてない人は早急に書いて送るように。

ところで私がSFを書く上で信条にしている事の一つに、「絶対に有りえないウソは一つまで」というものがあります。真鶴の場合その一つだけのウソが、DMシステムな訳です。それ以上のウソは今までのところ無いはずです。「M資金」も「有るかもしれない」という確率はあるのですから。その点DMシステムは、「質量保存の法則」をまったく無視していますので、絶対に有りえません。(断言してもしようがないが)

「極端な〜」については、私のRPGについての経験も絡んでいます。「あんたそりゃマンガの見すぎだよ！」と言いたくなるようなキャラをうんざりするほど見てきてますし、伝説と化している「H学園の冒険」のあのドタバタモードは私が扱える代物ではありません。それならば設定の段階で、その傾向があるキャラクターは制限してしまった方が、問題が少ないと考えた訳です。だから初期のルールでもキャラの能力値は大体10ポイント前後で団子になるように(若干の例外はいたものの)なっていたはずだし、今回もそのコンセプトは生きているはずです。

大体が、極端な設定を持つキャラクターというのは、その「設定」によりかかって自己満足なプレイをするだけってパターンが圧倒的に多いのです。それだったら何も私が書く必要はない訳で、自分で本なり何なりにしてどこかで売り捌けばいいのです。少なくとも私は、その種の○ナ○○野郎の手助けをするつもりは毛頭ありません。

そこで一つ、みんなに謎かけをしよう。

「楽しさを求める」のは、突飛なキャラでなければできませんか？

それからもう一つ、あなたは今の生活が、そんなにつまらないのですか？

もし両方答えがイエスなら、敢えてあなたを「怠け者」と呼ばせてもらいます。特に後者がイエスの人は心するように。努力しなさい、その先にある休息のために。少なくとも真鶴は、現実逃避のために設けられたフィールドではありません。なので、「突飛なキャラクター」は逆に邪魔でさえあります。誰にだって、「お前出てけよ」と思いたくなる人はいるはずですが？初期の真鶴にもそういうキャラはいました。誰とは言いませんがね。だからこそ「彼ら」をこれ以上増やさないための仕組みが必要なのです。

ついでに言えば、「極端なキャラ」は「もっと極端なキャラ」を呼び、「極端競争」に陥るとい性格も持っています。この可能性も排除したかったのです。

真鶴やPPMがつまらないというのは否定しません。胃炎と生計に追いたてられて、「やる気の為の義務」との板ばさみになりながら、半ばやつつけ仕事でまとめている現状を「面白い」なんてベタぼめにされた方が、うれしいですが悩みます。昔は良かった。

Blow。

☞なんとなく、最近のBlowは下降ぎみじゃないでしょうか。もうちっと参加者が増えないと、拡大が止まった途端に衰退する現象がおこってしまうかもしれません。

ま、10年くらいつづけてみるという目標でもいいと思いますが。（京都府・木村博昭）

㊤確かにね。そりゃ、企画担当と代理店の店員と添乗員と観光バスの運ちゃんとガイドとハワイアンセンターのダンサーと宿の旦那と仲居さんをいっぺんにやり続けてもう6年目に突入ですから、いかげん「老朽化」が見えてきても変じゃないです。ディアフレミたいに「ばわふりやあな仲間たち」がたくさんいればいいのにね。

☞「アンチ・サムライスピリッツ」ですか？まあ、頑張ってください。でも、あまり無理はしないで程々に（笑）最近ではスーパーストIIや餓狼SPなんやらで熱い（マンネリ）の格闘ゲームが出現しております。私もはまっています。何かシンプルなのがやりたいと思ってた所にナムコから「ニューマン・アスレチック」が出ました。これおもしろいですよ、お勧め品です。

（秋田県・菅原忠幸）

㊤「NA」はいい、確かに。シャロンは特にいい。（あ、また女の子かよ）髪型は狙いすぎだが。先日一回やっただけですが、その時は「砲弾止め」（？）までしか行けませんでした。サルロットの方は「負けにくい方法」が少し身につけてきました（前号と言ってる事が何か違うぞ）。

でもなあ、2月に福岡行く用事ができたから（例の飲み会プライベ）、その資金ためるんで「禁ゲー」「禁パチ」「禁馬」の三禁体制に突入だもんなあ……「禁煙」も考えないとなあ……今度逃したらまたいつ本州出られるか分からんしなあ……

☞（前略）裏表紙の次号題名は…その次を予想すると恐ろしい気持ちになります。Blow21号の題名は「国家斉唱」とか「私八艦ト運命ヲ共ニスル」や「各員自由行動ニ移レ」になるのだろうか…

（宮崎県・赤木崇敏）

㊤そう言われるとあのシリーズ続けられないじゃんか。……ウソです。前回で終わりです、あれは。Blowの調子が下降気味なのを自嘲してつけてたんですが、どうも逆効果くさいのでやめです。それにしてももう、締め切り過ぎてから狂ったように参加用紙が家に届くようなことは無いようにして下さい。お願いですから。

空技廠マルチメディア宣言

いきなり何かとお思いでしょうが、細かいことを言うところという事です。

Blowではゲームに限らず、いろいろな方面に興味の対象を拡げます。三雑にもゲーム以外の「あなたの興味があること」についても送って下さい。

……ロウソクって、消える間に急にきれいに輝くけど……（意味深）

興靖国神社参拝企画

思い付き企画その一。年明けの1月5日に靖国神社詣でを敢行しようと思います。……別に右翼の思想活動とかそういうんうんではないのでご安心を。ここの博物館に二次大戦の資料がいっぱい有るので、それを見ようってだけです。ガイドは不肖私が務めさせていただきます。正午に渋谷駅モヤイ象前で待ちます。近県の方は是非来てね。

興第三次バトルテック大会の予告

日程変更。年明けの1月16日に荒天強行です。集合は例によって東急東横線横浜駅の1F改札口、切符売場の一番奥です。時間は午後2時。10分以上遅れた人は容赦なく置いてきます。それまでに各自で昼飯を済ませておくこと。例によって例のごとく、このBlowを持って私が立っています。多分ミッドウェイのタックをつけたMA-1を着てるでしょう。黒のジャケットかもしれないけど。

解散は6時ないし7時の予定です。晚饭は食べません。予定参加費用はバトテ3(2)回にカラオケ代で5000円です。



第一回どらいぶ会の予告

思い付き企画その二。来年の春くらいに、外で車使って何かしようと考えています。多摩テックなら確か免許が無くてもそこそこは楽しめるはずなのですが……レンタカー借りて箱根日帰り温泉観光とか、真鶴探訪とか、奥多摩新緑狩りとかの方が楽しいかな、などと思っています。時間は少しきついけど、富士山麓も行って行けないことは無いでしょう。それとも百里見物の方がいい？こっちの方はまだ「腹案」程度の考えでしかないので、「こういうのどうだ？」というのがあったらどうぞ遠慮無く。

ただ、私は「早駆け」だの「峠攻略」だのには興味が無くって、「遠乗り」「滑らかなソフトウェア」に快楽を覚える性質なので、その辺は考えに入れて下さい。

※イラストは例によって「英雄伝説Ⅲ」の広告からです。意外に簡単に写し絵/改造ができたので自分でも驚いています。たまにはハンディスキヤナも使ってみたかったし、上出来上出来。

三等食堂おすすめメニュー *Written by M.tanaka*

本日のおすすめメニュー

旅立ち他突然に 他

(紹介：東京都 石黒智明)

私が紹介させて頂くのは近年氾濫、洪水が如く成長したファンタジー小説界の一人、冴木忍さんです。

既にご存じの方もいらっしゃると思いますが冴木さんは第一回富士見ファンタジア長編小説大賞にて入選、その後富士見文庫ドラゴンマガジンにて数々の長編、短編を発表し、その度に人気を上昇させてきた新鋭の小説家です。既に数々の文庫本を著しており、それぞれの人気も上々です。私の中でも一押ししたいのはシリーズ長編小説の中でもっとも多く冊数のある作品、「<卵王子>カルロットの苦難」シリーズと処女作に当たる「メルヴィ&カシム」シリーズです。<卵王子>の方はシリーズの名前が示す通り卵から生まれた王子が主人公の小説です。この王子はおよそ王子らしくない設定が目を引きまします。趣味はなんと盆栽！その上生まれのせいで許嫁には逃げられ、結婚するまで伸ばして

いる髪は長くなる一方。更に自分の城と街が魔法使いの手によって全てを石にされてしまうのです。この究極の不幸者を中心に物語が進んでいきます。この様に冴木さんの小説の特徴として挙げられる一つは、主人公がとことん不幸なことが挙げられます。先ほど紹介した「メルヴィ&カシム」シリーズの主人公、カシムも例に漏れずに不幸です。

街一つを消し去る強大な力を持った大魔法使いメルヴィの弟子となったカシムが肝心の魔法は一切教えてもらえずに十代の若さで家事全般をこなせるようになるほどこき使われ、メルヴィの欠如した金銭感覚のために貧乏に苦しむ、といった感じです。

しかしどちらの作品もただ不幸だけでなく、周囲をとりまく人々と支え合い、自分の不幸にめげずに一生懸命生きていこうとする姿が心に訴えかけるような不思議な感覚を呼び起こしてくれます。こう紹介すると言葉が足りないので補足説明をしますと、これらの作品は暗い作品ではありません。ある時はコミカルに、ある時はしんみりと喜怒哀楽全ての要素を含んだメリハリのある展開があるのです。最近、感受性に衰えを感じるような方には特に推薦します。是非ご一読を。

(一部原文省略)

(卵王子)カイルロットの苦難①

旅立ち他突然に

冴木 忍

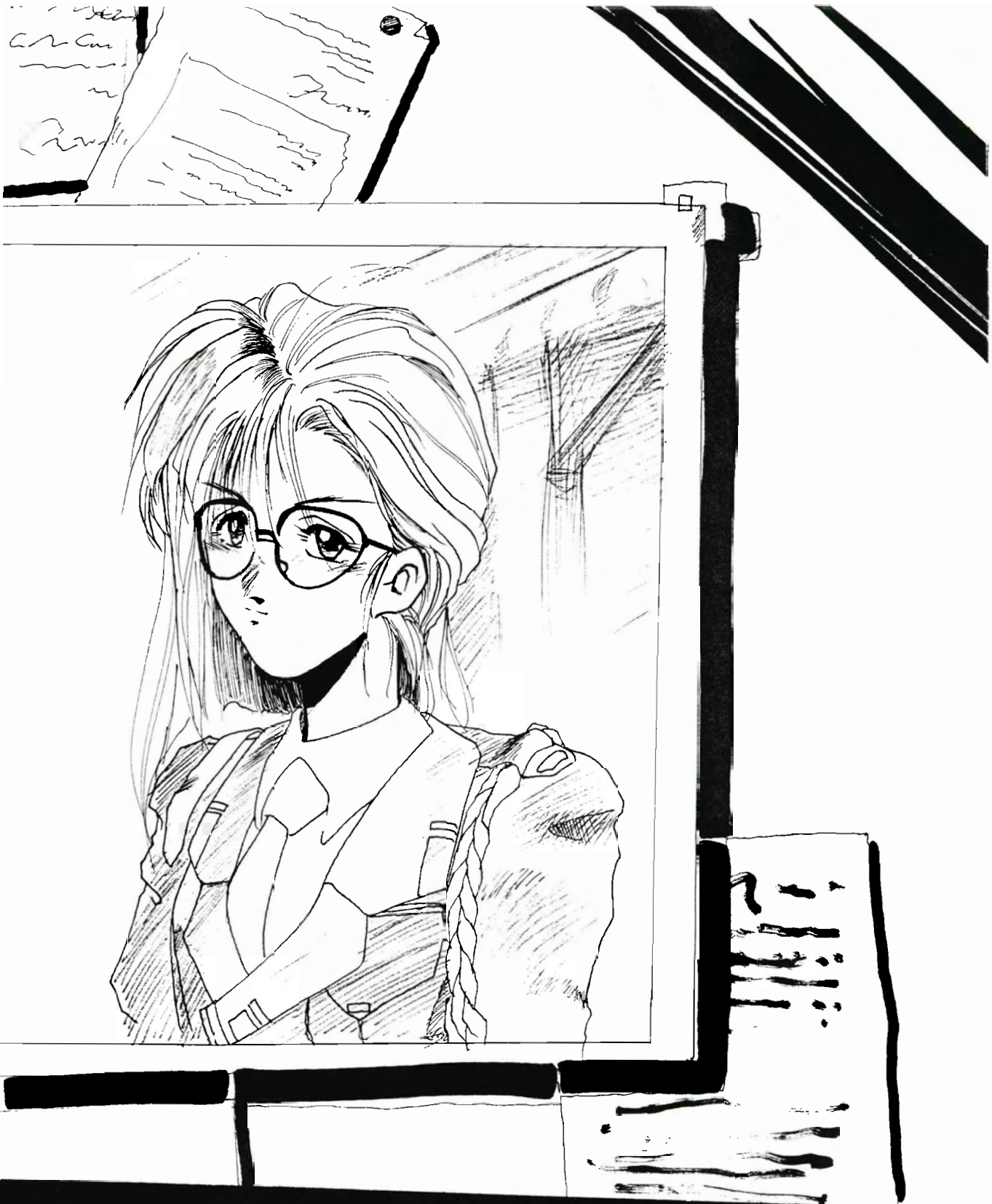


富士見ファンタジア文庫

イラスト 田中久に彦

冴木忍 著書(いずれも富士見ファンタジア文庫) <卵王子>カイルロットの苦難 シリーズ 1~4 ¥430~470

メルヴィ&カシム シリーズ 1~2 各¥470 星の大地 シリーズ 1~2 各¥470 他多数



Peace Presser Mava

前回までのあらすじ：

I C P Oの犯罪捜査官ヤーニヤ・モロフォビッチは、「民族主義の過激派」に狙われていた。避難を兼ねて日本へ転任した彼女と組むことになった尼崎摩耶だったが、今度はその摩耶が標的にされた。

二度も襲われた彼女は何とかしのいだが、今度は東京が大地震に見舞われる。テント村で避難生活に入った彼女たちを、三度目のテロが襲った……

6：私たちはすぐさま地面に伏せたが、銃声のした方角はビルにこだましていてよく判らなかつた。かなりの距離から撃ったことだけは確かだ。弾着より銃声の方が先だった。私の手持ちでは、せいぜい30mぐらいまでしか自信はない。狙ったのは私か、ヤーニヤか？

思った矢先、二発目が来た。やっぱり私だ！すぐ脇で跳弾が埃を立てる。転がって位置を変えた矢先、三発目の赤い閃光が一瞬目に入った。少し遠いが、割とまともな状態で残っているビルの3階だ。

そっち側の建物にはり付こうとして、やめた。まだぶら下がったままで残っている看板に押し潰されでもしたら、泣くに泣けない。上半身をかがめて一気に突っ走る。5秒フラットぐらいで内部へ飛込み、その勢いで狭い階段を駆け上がった。

半開きになっている扉を蹴っ飛ばし、銃を構えて中へ……入った途端、後ろから撃たれた。迂闊にも逃げにかかっている可能性を忘れていたのだ。足音が上へ消えていく。後を追いつながら何となしにほおをなせてみると、軽く血が付いていた。野郎！傷物にしゃがんで。不思議と痛みはなかつた。

結局、屋上まで十数階分走らされた。扉は開いていたが、さすがに二度もドジをやらかすほど鳥頭ではない。屋根から撃たれたら間抜けもいところだ。

まず、正面方向に遮蔽物が無いのを見て取り……やはり、横のハシゴで上へ行った可能性が高い……ヒサシに隠れて両サイドを確認。場合によるとそっちに隠れているかもしれない。確率は1/3。

上の目標を狙うのは割と難しいが、
——勝負！

さっと振り返りながら銃口を上へ……向けかけて、左へ振り落とした。そっちに奴は隠れていたからだ。急いで駆け戻りながら、2発撃つ。向こうも一発撃ってきた。手応えはなし。奴も拳銃を使っていた。ライフルは多分片付けたのだろう。その程度の常識は有るらしい。

いつまでもこのまま膠着させておくのは気が進まなかつた。かといって何か策が有るかといえば、そうでもない。同僚が一人上がってきたが、状況は変わらなかつた。危なくて出られないから。ヘリなどの出動は望めない。振動だのダウンプラストだの何が起こるか分からないからだ。

5分後、警視庁の機動隊がバスに分乗して大挙やって来た。災害対策もあるだろうに、ご苦労なことである。

だが、ただでさえ体つきのごつい彼らは、ジュラルミンの盾も考えると、一度に一人ずつしか出られない。盾無しなら二人ずつでも出られそうだが、それは私らと一緒に、ほぼ自殺行為だ。

参ったなあ……

舌打ちした途端、下の方で悲鳴と一緒に何か落ちるような音がした。何？すぐに連絡が上がってきた。

「犯人が飛び降りました」
無線を受けた機動隊の隊長は言った。
「即死です」

犯人の武器は軍用狙撃銃と40口径の自動拳銃だった。どっちにしても当たり所が悪ければ即あの世行きである。出て行かなかったのは結果として正解だった。

一方で、例によって犯人は身元を証明するものは何一つ持っていなかった。頭から50m以上落ちたので、顔はCGでも復元できそうにない程潰れたらしい。「ノーロープ・パンジージャンプ」を生で見せられた者の心情は察するに余りある。

気がかりな点が一つ。

犯人は白人だった。ブラック・ムスリムは「黒人の」組織で、強烈な半白人主義を掲げている。……なぜだ。

そして、もう一点。どうして彼らはこうも腕が悪いのか？最初の一件はまだわかる。自ら移動しつつ、移動する目標を撃つのはた易いことではないから。だが二件目は？私らを狙うなら、もっとタイミングの取り方が有るはずだ。ドアに連携させた方が手っ取りばやいし楽だ。そして、三件目。ナイトスコープまで付けてあったのに、外すような狙撃者とは？

ここまで来ると素人の犯行としか思えない。あるいは恐怖心を煽るだけ煽ってから、という手段も有るには有る。だがそれはサディストが単数でやるケースが圧倒的に多い。今回のように一回だけで犯人が自殺してしまうような場合、どうだろう？

なら、それぞれが別件なのだろうか？

考えられないではないが、あまり考えたくない。そうだとしたら事態が大

きすぎて私の手におえるような代物ではなくなるからだ。

折衷案として……どこかの組織が、明確な意図の下、恐怖心で私等の判断を混乱させておいて、楽に殺害しようとしている、なんてのも考えられる。逃げそこねたら自殺、という手で来られたら、誰が主体かもわからない。

どの道ブラック・ムスリムは除外していいはずだ。犯人が白人だから。私には、今な面倒な手段で来そうな連中はあと一つだけしか思い浮かばなかった。そこなら、動機もはつきりする。

7：関東の復興作業は主として外郭部の方から開始された。そうしないと中央部の工事に必要な、膨大な規模の資材の搬入作業に齟齬を来すからである。その中央部では、やがて行われるだろう再開発のために、破壊の程度のひどいビルから爆破解体が始められた。新宿の都庁もその中に含まれていたが、意外にも有楽町の近代博物館——昔はこっちが都庁だったらしい——や霞ヶ関のビル群なんかの方が、よっぽどまともな状態で残っていた。古いビルはとにかく頑丈に作られていたから、それが幸いしたのかもしれない。桜田門の合同庁舎は真っ先に爆破されるグループだったのは、言うまでもない。

同時に都市区分の見直しも実行されることになった。今まではあまりにも様々な物がごちゃごちゃと混在していたので、かえって被害をひどくしたと見られたから、それを組み直そうというのだ。「防災都市」と言えば聞こえはいいが、何の事はない、古いものをばっさり切り捨てるだけの話だ。この街は、いつもそうやって伸びてきた。今回もそれに倣うにすぎない。

地震発生後3日目の朝になった。私は、自分の考えを主任に話してみた。ヤーニヤには少し席を外してもらった。どうせテントの中の話しだ、聞き耳さえ立てれば聞こえたかも知れない。聞いたか聞かないかは後になっても確かめもしなかった。

「それでお前がにらんだ犯人グループは、どこだ」

「KGB」

主任は糸目に近い両目を、精一杯見開いた。やはり即答はまずかったか？

「……よし、その線で追ってみろ。ただし、一人でだ。ヤーニヤにはおあつらえ向きに別の件が待っているから、外す。モスクワへは行くか？」

「まだわかりません」アドレナリンの分泌をわずかに感じた。「でも、場合によっては」

「わかった。他には？」

「私を県警へ戻して下さい」

関東も横浜あたりまで来ると、地震の被害はあまり目立たなかった。随分長いこと帰らなかった気がする。ヤーニヤの仕事は電電公社の回線復旧工事の手伝いだから、適任この上ない。

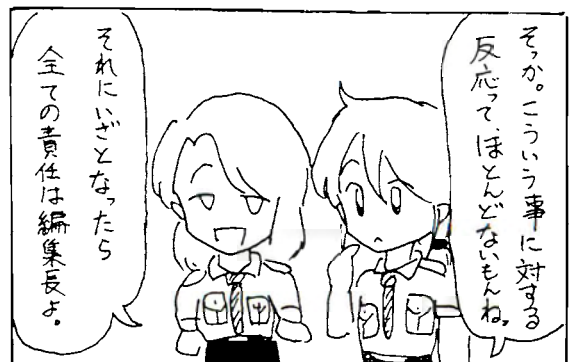
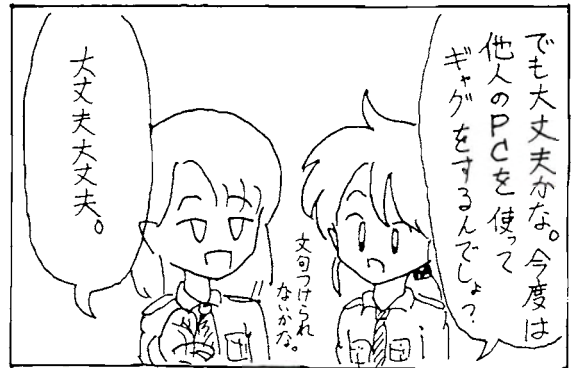
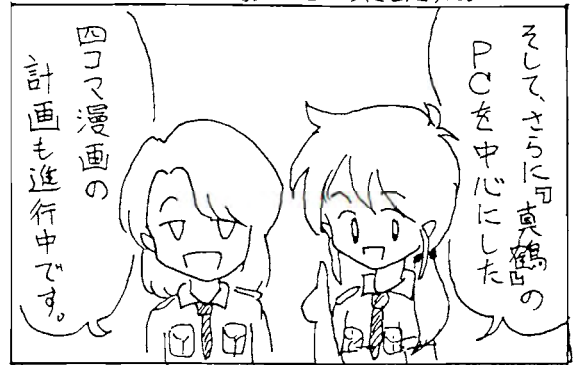
東京なんてこれから当分は関係ないのだと思いたかったが、そうもいかなかった。私の反撃はこれから始まるのだから。自宅の無事も確かめずに港北署へ直行した私は、建物がほぼ無傷なのに驚いた。以前ここの捜査課に配属されていた時は手抜き工事だとばかり思っていたが……。もちろん置いてあった車も無傷だ。これを幸運と呼ぼずして何と言おう？内心喜び勇んで古巣の捜査課に出頭する。いる連中にほとんど変わりはない。

「やあ」私は手を挙げた。「帰って来たよ」
(続)

今月の フライングNEWS

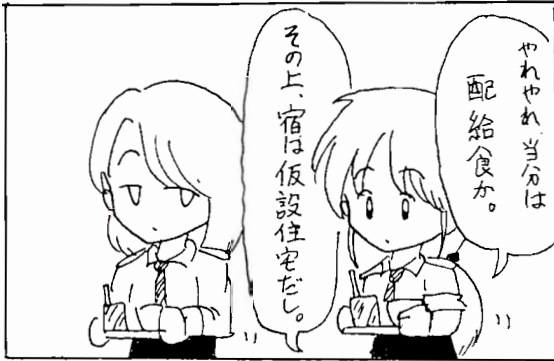


▲各回への「公南私信」のところだと思います。

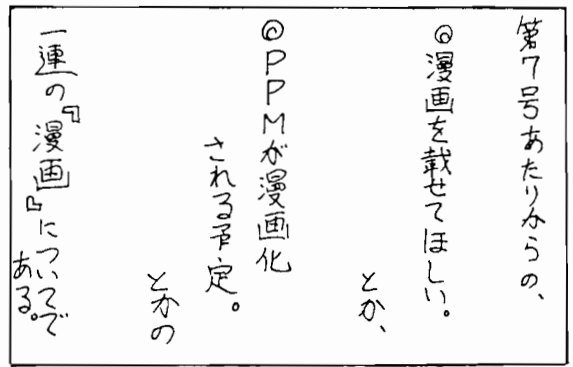
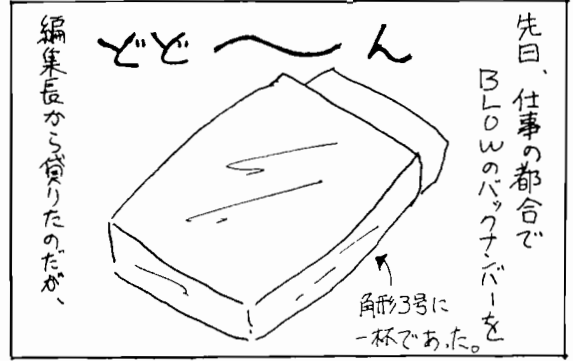


というわけで、好き勝手やらして頂きます。(笑)

食う寝るところに住むところ



THE WIND(笑)



▲ 私ほて、きり「穴うめくん」と思ってた……。

航海日誌

菊：汽車旅したい。酒飲みたい。温泉つかりたい。ドライブしたい。金がない。
田：朝の電車の中で子連れ母親がクイズで本片手に子供と戯れる図。
「セーラージュピターのピアスの色は？」（実話）

SM-ンネタも却下だ却下！(編)

Crew

編集長：菊地研一郎／編集補佐：田中真人／筆者：田中真人 岬当麻 正宗征士
本居小次郎／絵：本居小次郎 本居の先輩 幻 井村和正 (脱稿順)

Blowers第20号

第4巻第9号(通巻21号) 平成4年11月31日発行 代価300円(送料別)

編集人・発行人：菊地研一郎

発行所・印刷所：「空技廠」

本誌記事の一部または全ての無断使用を禁ず

表紙：東京駅で発車を待つ20系編成 画：本居小次郎

次号「朝だ夜明だ、潮の息吹」は正月に到着予定です。
原稿・投稿メ切は12/25(必着)です。

i いいのか、コミケだぞ？年末進行だぞ？

ii 1月20日までに届かなければ、郵便事故の可能性が大なので、すぐ連絡を下さい。

iii 年末になるほど事故り易いので、早目に発送されるようお願いします。

